

"If you ask me to name the proudest distinction of Americans, I would choose—because it contains all the others—the fact that they were the people who created the phrase 'to make money.' No other language or nation had ever used these words before; men had always thought of wealth as a static quantity—to be seized, begged, inherited, shared, looted or obtained as a favor. Americans were the first to understand that wealth has to be created. The words 'to make money' hold the essence of human morality." —Ayn Rand

経済研究所主催

公開講演会

アイン・ランドと アメリカ自由市場 資本主義の底流

アイン・ランドが1957年に発表した長編小説『肩をすくめるアトラス』は、1991年にアメリカ議会図書館他が行なった「人生で最も影響を受けた本」の調査で、聖書に次ぐ第2位となった。ランドの思想は、レーガン政権から今日に至るまで、自由市場資本主義に大きな影響を与えてきた。

アメリカでは著名過ぎ、日本では無名過ぎるアイン・ランドに焦点を当て、アメリカ的な政治文化・経済政策思想の底流をさぐる。

講師

米国アイン・ランド協会 (Ayn Rand Institute)
エグゼクティブ・ディレクター

ヤロン・ブルック氏

※使用言語：英語（通訳なし）



アイン・ランド翻訳家

脇坂 あゆみ氏



【略歴】

ジョージタウン大学外交学院修士課程修了。ウォールストリート・ジャーナル紙ワシントン支局、GEインターナショナル社、仏系ファッション企業などを経て、現在はシリコンバレーのIT企業に勤務。訳書に『肩をすくめるアトラス』（ビジネス社、2004年）、『われら生きるもの』（ビジネス社、2012年）他。

※ご参考：<http://toyokeizai.net/articles/-/94979>

日時

2016年1月20日

18:30~20:30

場所

立教大学 池袋キャンパス
8号館 3階 8303教室

東京都豊島区西池袋3-34-1

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/campusmap/>

対象者

本学学生、教職員、校友、一般 他

定員

約200名（先着順）

申込不要・入場無料

アイン・ランドとアメリカ自由市場資本主義の底流

(内容)

| | |
|-------------|---|
| 18:30-18:35 | 研究所長あいさつ |
| 18:35-19:00 | 講演1 脇坂あゆみ氏「『肩をすくめるアトラス』の思想と米国の政治文化 |
| 19:00-19:50 | 講演2 ヤロン・ブルック氏「自由市場資本主義の道義的基礎」 ※使用言語：英語（通訳なし） |
| 19:50-20:00 | ブルック氏講演の抄訳・諸論点のまとめ 脇坂氏 |
| 20:00-20:30 | 質疑・討論 ※使用言語：英語・日本語 |

講演1 『肩をすくめるアトラス』の思想と米国の政治文化（脇坂 あゆみ氏）

『肩をすくめるアトラス』*Atlas Shrugged* (1957年刊)は、半世紀にわたってアメリカで読み継がれてきた。同書に代表されるランドの作品と思想は、ニクソン政権での徴兵制の廃止、レーガン政権での規制緩和の原動力となり、ランド思想の影響は、FRB議長だったA・グリーンズパンや最近のTea Party（茶会党）運動、さらには大統領選に出馬した保守派の政治家ロン・ポールと次男のランド・ポールなどに及ぶ。現在共和党の予備選でドナルド・トランプにつぐ高支持率を獲得しつつあるレッド・クルーズもランドの愛読者である。アイン・ランドとは何者か。その魅力はどこにあるのか。彼女の思想と作品がアメリカの政治文化・経済政策にどのような影響を与えてきたのか。同書の日本語訳者である脇坂氏に概説していただく。

講演2 自由市場資本主義の道義的基礎——茶会党（Tea Party）・FRBと金本位・格差と公平をめぐる経済政策思想（ヤロン・ブルック氏）

自由市場資本主義の効率性はハイエク、フリードマンも論じたが、彼らが十分に擁護しなかったその道義的な側面とは何か。茶会党なども共通する小さな政府をめざす財政保守主義の思想と運動の根拠は何か。FRBと量的緩和政策や金本位制をめぐる議論、格差と公平をめぐるT. ビケティ批判の政策論についても語っていただく。

アイン・ランドもブルック氏も、アナキストを含む広義の自由至上主義者（リバタリアン）とは一線を画し、安全保障・治安と法の整備について政府には重要な役割があるとする見解だが、経済政策面ではリバタリアン思想に近く、ワシントンDCのケイトー研究所に代表されるリバタリアンのシンクタンクなどへの影響力も強い。アイン・ランドを間に置くことで、分極化するアメリカの一つの極を分析する目が養われるだろう。経済成長に必要なのは格差の是正ではなく、さらなる自由ではないかと問う、きわめてアメリカ的な経済思想の根拠はいかなるものなのか。その議論は、日本からは見逃してしまいがちなアメリカ社会像を取り結ぶのに役立つことになるだろう。

ヤロン・ブルック氏

(アイン・ランド研究所所長)

Dr. YARON BROOK

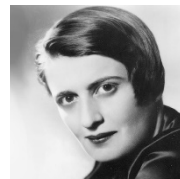
【略歴】

イスラエル生まれ。1987年に渡米、テキサス大学オースティン校でMBAと金融分野の博士号を取得。サンタクララ大学で教鞭をとったのち、金融のコンサルティング会社を設立。2000年にアイン・ランド研究所所長に就任。2003年にアメリカに帰化。最近の著作に“Free Market Revolution: How Ayn Rand's Ideas Can End Big Government”がある。T. ビケティ『21世紀の資本』への反論として、春に“Equal is unfair”を刊行予定。財政保守派の論客としてフォーブス、ウォールストリート・ジャーナルなどに寄稿するほか、人気の高い自由市場擁護者として講演活動を行なう。

AYN
RAND
INSTITUTE

アイン・ランド

AYN RAND (1905-1982)



個人主義・合理主義・資本主義を柱とする独自の哲学「オブジェクティヴィズム」を小説やエッセイを通じて世に問い続け、アメリカの「保守の女神」とも呼ばれる思想家・小説家。ロシアのサンクトペテルブルグで生まれた彼女は、十代で共産主義革命を目の当たりにするも、その矛盾と限界をいち早く見抜き、1926年に故国を捨て単身渡米。1936年『われら生きるもの』で小説家としてデビュー。1943年『水源』がベストセラーとなり、作家としての地位を確立した。1957年、執筆に12年間を費やした長編小説『肩をすくめるアトラス』を発表。その思想は元FRB議長のアラン・グリーンズパンをはじめ当時の若者に大きな影響を与えた。宗教をも否定するランドの主張は、先鋭的であるがゆえに異端視されてきたが、その作品は自由至上主義の古典としていまも読み継がれ、米国会図書館の調査では「聖書に次いでアメリカ人に最も大きな影響を与えた本」とされた。

